



いのちの大切さを考える絵本（幼児～小学生向け）

「みとめあうってすてきだね」5

読み聞かせを楽しみながら いのちの大切さを考えてみませんか？

市内5つの図書館で借りられます。



東村山市立図書館

わたしはひろがる 岸武雄／作 長谷川知子／絵 子どもの未来社

自分がすべてだった小さい「わたし」が、大きくなるにしたがって、親や友だち、そして世界の人々や動物の立場にまで思いをはせていく。そんな少女の心の成長を語った詩をじっくり味わってください。

ゆうたはともだち きたやまようこ／作 あかね書房

「おれ いぬ。」「おまえ にんげん。」「おまえ わらう。」「おれ しっぽふる。」ゆうたくんちのいばりいぬが、いろいろちがっても、ともだちだよとおしえてくれます。ユーモアあふれる絵本。

どうしてダブってみえちゃうの？ ジョージ・エラ・リヨン／文 リン・アヴイル／絵 品川裕香／訳 岩崎書店

ジニーは本が好き。でも文字も絵も二つずつ見えてしまう「ダブル・ビジョン（複視）」だったので。視力検査でそのことがわかり、治療が始まりました。大丈夫、ちゃんと見えるようになりますよ。

おいでよルイス！ レシー・エー／さく ホリー・ダンバー／え もとしたいづみ／やく フレーベル館

ルイスはサッカーをしてもルールを気にせず走り回るし、話しかけても同じ言葉を繰り返すだけ。だけど…。転校してきた自閉症の子がクラスになじんでいく様子を優しいまなざしでえがいています。

みんなそれぞれ tupera tupera／作・絵 PHP研究所

なにげないこと、たとえば「あるく」。それだけだって、みんながみんな同じじゃない。とぶ、はしる、およぐ、人間、動物、虫・・・いろいろなものが思うままにうごいている。だからおもしろい。

ぼく・わたし 高島那生／作 絵本館

とくいなこと、とくいじゃないこと、すきなこと、にがてなこと、たくさんの人がいればたくさんのいろいろがある。この絵本にえがかれた自分とよく似たぼくやわたしに出会えるかもしれない。

トラネコとクロネコ 宮西達也／作絵 鈴木出版

ひとつの桃を取り合ってケンカになり、いかに自分の方がすぐれているか自慢し合う2匹のネコ。でも、ひよんなことから相手のことを思いやる気持ちが生まれ、すっかり仲良しになりました。

せかいのひとびと ピーター・スピーア／えとぶん 松川真弓／やく 評論社

世界には肌や目の色、顔かたちの様々な人種の人がいる。食べ物や言葉も違う。同じ国の人でもいろいろな性格の人がいる。みんなそれぞれ違うということが、素敵なことだと気づかされる本。

【平成27年度 東村山市「いのちの教育」推進プラン関連事業 平成28年1月発行】